

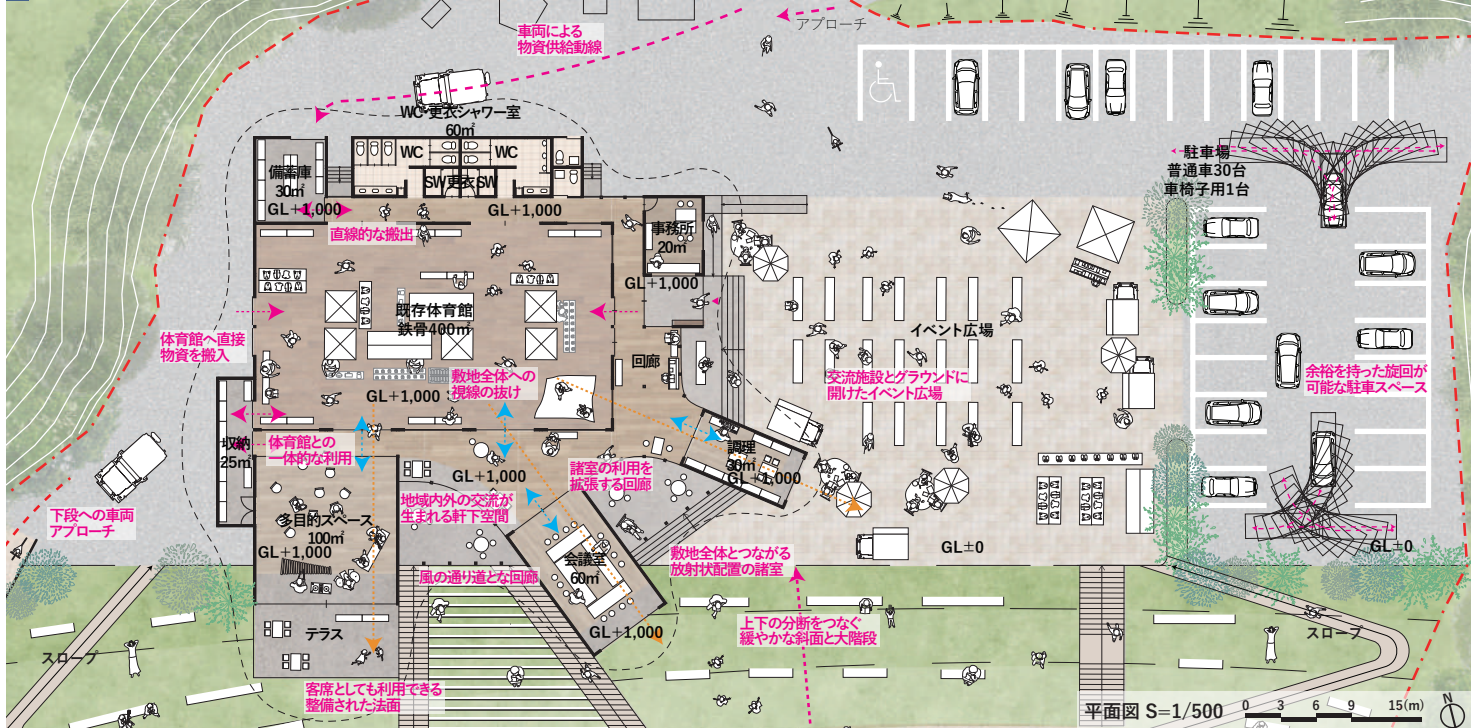
拡張性と柔軟性を持つこれからの七滝をまもり、育む防災・交流拠点



御船町は住みやすい田舎として人口増加が見られる一方、本計画地である中山間地域では人口減少と高齢化が進み、旧七滝小学校のように建物が解体される例も出ています。
本計画では、残された体育館やグラウンドなどの建築ストックを活かし、日々の営みや人々のつながりを高め、地域のつながりを再編成する計画を行います。
世代や立場を超えた多様な人を引き込み、様々な活動を生み出す新たな交流・防災の場をつくります。既存体育館と交流施設が周辺を巻き込みながらつながり合う構成をもち、「今あるもの」を活用しながら人々の暮らしを守る新たな拠点を実現します。

交流・防災施設の平常時と防災時の機能を考慮した平面・配置計画

常時と非常時を支える「第2の家」
新しい交流施設は、多様な人々の多彩な活動が同時に行われることを想定し、自由に交流できる余白の場をつくります。多方向へ広がる諸室や余白空間が既存体育館とグラウンド・広場をつなぐことで、「日常」の交流やイベント時での一体的な活動を可能にします。普段から地域住民が集い利用でき、非常時（災害時）には頼れる「第2の家」とすることで、常時には円滑な利用と安心な滞在を支える場となり、非常時には避難所や仮設住宅用地として機能する防災拠点となります。



体育館と多目的スペースがシームレスにつながる回廊

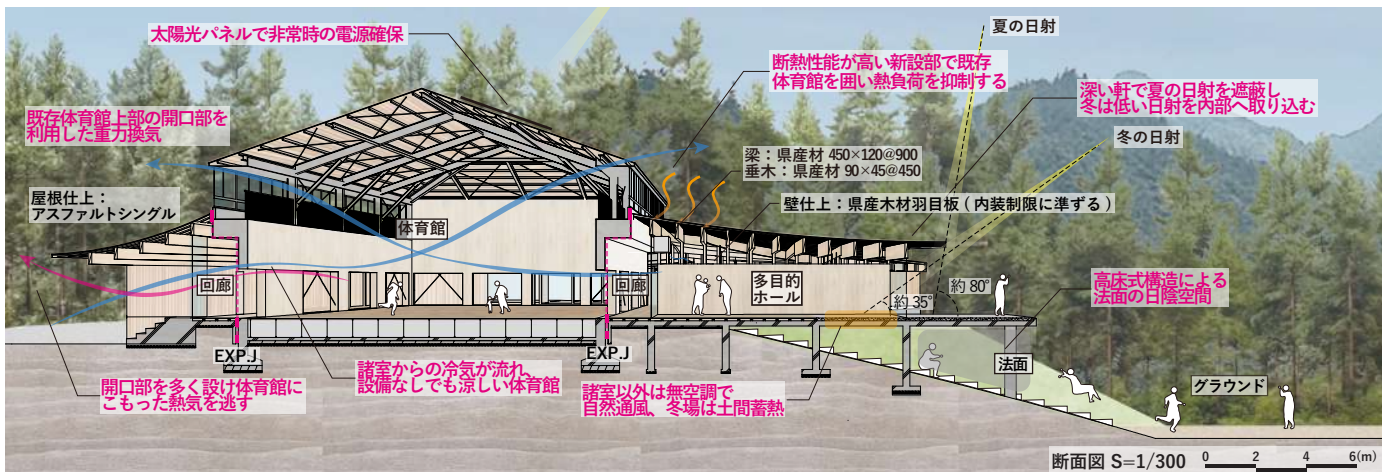
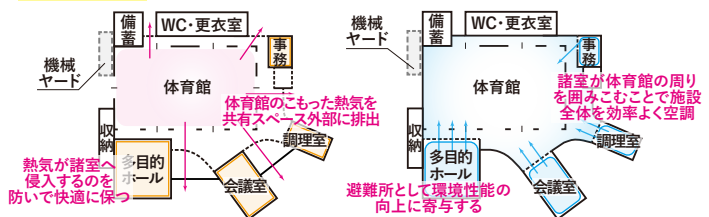


外部空間に視線が抜ける調理室

環境配慮、省エネ、コストに配慮した計画

自然エネルギーを活かした環境設備計画

- ・本計画では、自然エネルギーを最大限に活用し、空調設備は必要最小限とすることで、省エネルギーと低コストの両立を図ります。
- ・既存体育館と連続する交流・防災施設に多方向への通風経路を確保し、効率的な換気を実現します。
- ・既存体育館への直射日光を避けて熱気が滞留しにくい環境をつくり、高断熱で計画された交流施設が建物全体の熱負荷を低減します。
- ・交流施設は深い庇とすることで周縁部に日陰をつくり、内部からは夏の日射遮蔽と冬の日射取得が行える計画です。
- ・交流施設の個室以外の回廊は、夏場は体育館と連動した自然通風による重力換気を行い、冬場は土間蓄熱効果で、無空調としつつ環境性能の高い快適な空間をつくります。



既存との繋がりを考慮し、将来にわたって継続的に運営できる施設

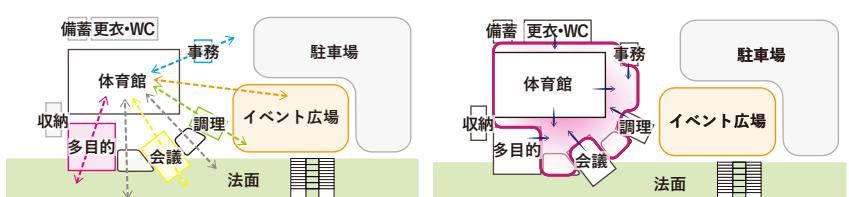
既存体育館を空間の核とした、多方向へ広がる拠点

既存体育館を中心とした放射状配置

既存体育館を中心に諸室を放射状に配置することで、内外で繋がりを感じられる拡張的な空間構成とします。

諸室同士の間で活動を生む余白空間

諸室のあいだに余白空間を設けることで、異なる活動が近すぎず遠すぎない距離感で、自然と交わる場をつくります。

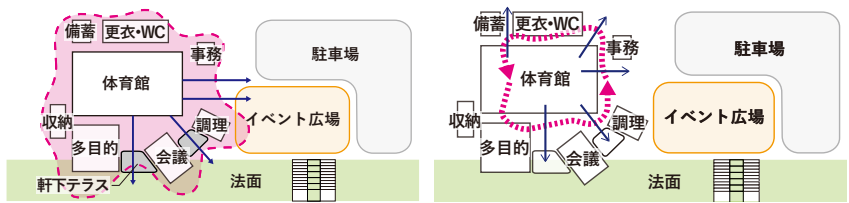


敷地全体を包むような大屋根と軒下テラス

大屋根がつくる軒下テラスは、外からはグラウンド利用や観戦の場に、内からは縁側のような交流の場となり、内外に関係性を生み出します。

有機的につながる広い回廊

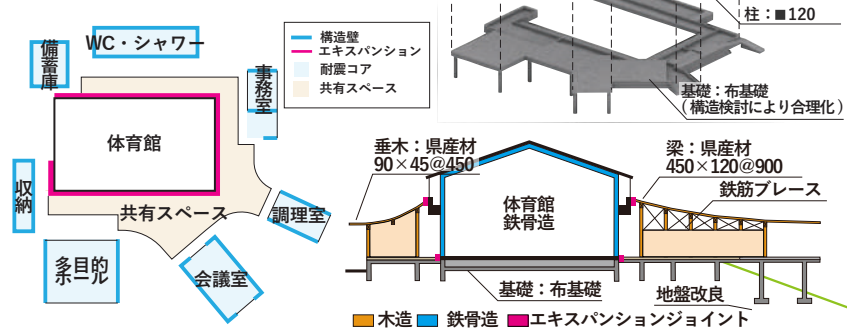
幅1,800mmの広い回廊が諸室と既存体育館を有機的につないで多方向に抜けを作ることで、動線が多様化し、偶発的な出会いが生まれやすい空間を作ります。



県産木材と地元技術を生かした構造計画

既存体育館を取り囲む木造の門型フレームコアによる増築計画

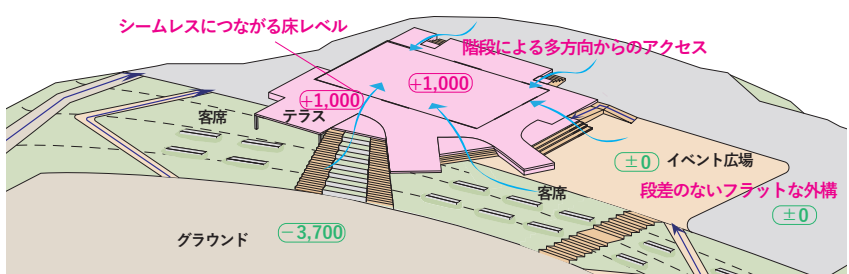
- ・新設部はエキスパンションジョイントで既存体育館と切り離し、互いに負荷をかけない独立した構造とします。
- ・放射状の耐震壁と耐震コアによって、全体の水平剛性を確保します。
- ・諸室は県産木材による門型フレームを配置します。部材寸法は流通材規格を基準とし、大スパンとなる多目的スペースは規格材を継ぐことによって経済性を確保します。
- ・木造の大屋根は鉄骨造の既存体育館を雨風から保護するとともに、鉄骨造とは対比的に柔らかく温かみのある空間を創出します。
- ・コストを考慮し、地盤状況や施工の合理性を併せた構造計画をすることによって、基礎を最小限とする検討を行います。



バリアフリー・ユニバーサルデザインに配慮した施設

既存体育館や周辺環境と連続性を生み出す回廊

- ・交流施設の回廊は段差をなくし滑りにくい仕上げとし、主要な出入口にはスロープを設けます。これにより、年配の方や車椅子の方を含め、誰もが利用しやすい空間をつくります。
- ・既存体育館と交流施設の床の高さを揃えることで、新旧二つの建物が一体となり、既存体育館へのアクセス性を向上させます。また、施設全体をシームレスに利用可能で、快適で利便性の高い計画です。
- ・敷地内の高低差を活かしつつ、緩やかにつながる造成を行うことで、敷地内を誰もが自由に周遊できる計画を行います。



全体・外構計画についての提案

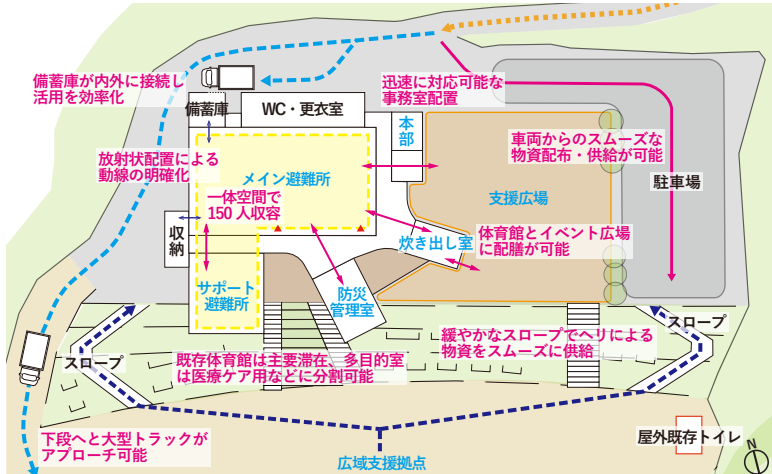
「いつも」と「もしも」に対応できる施設

常時・非常時・イベント時に柔軟な対応ができる交流施設

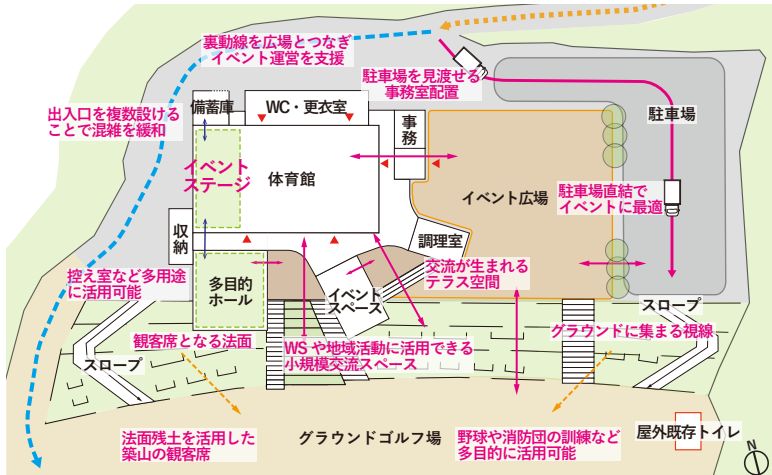
既存体育館を中心に広がる交流施設は、**常時・非常時・イベント時に柔軟な活用が可能**です。常時は既存体育館と同じ床高さで計画することで一体的な利用を可能にし、**施設全体の利便性を向上**させます。

非常時には、その放射状のつながりがそのまま**避難経路や物資搬入のルート**として機能します。一本の通路に人が集中せず、流れを分けることで、**混雑を避けながら迅速に対応が可能**です。交流施設は、人々が集まる場を柔軟に広げながら、**常時・非常時でそれぞれの役割**を持ちます。

非常時の利用



イベント時の利用



- ・非常時は避難生活の場として柔軟に対応できる拠点となります。外部空間を広く確保して物資の供給場所としながら、避難所となる既存体育館を囲う空間があることで、**避難者のプライバシーを確保しつつ物資供給がスムーズに行われる計画**です。
- ・常時に育まれてきた交流の空間を活かし、安心して身を寄せられる**避難拠点**となります。日常と非常時の両方に柔軟に対応できる、**御船町の未来に開かれた防災拠点**です。

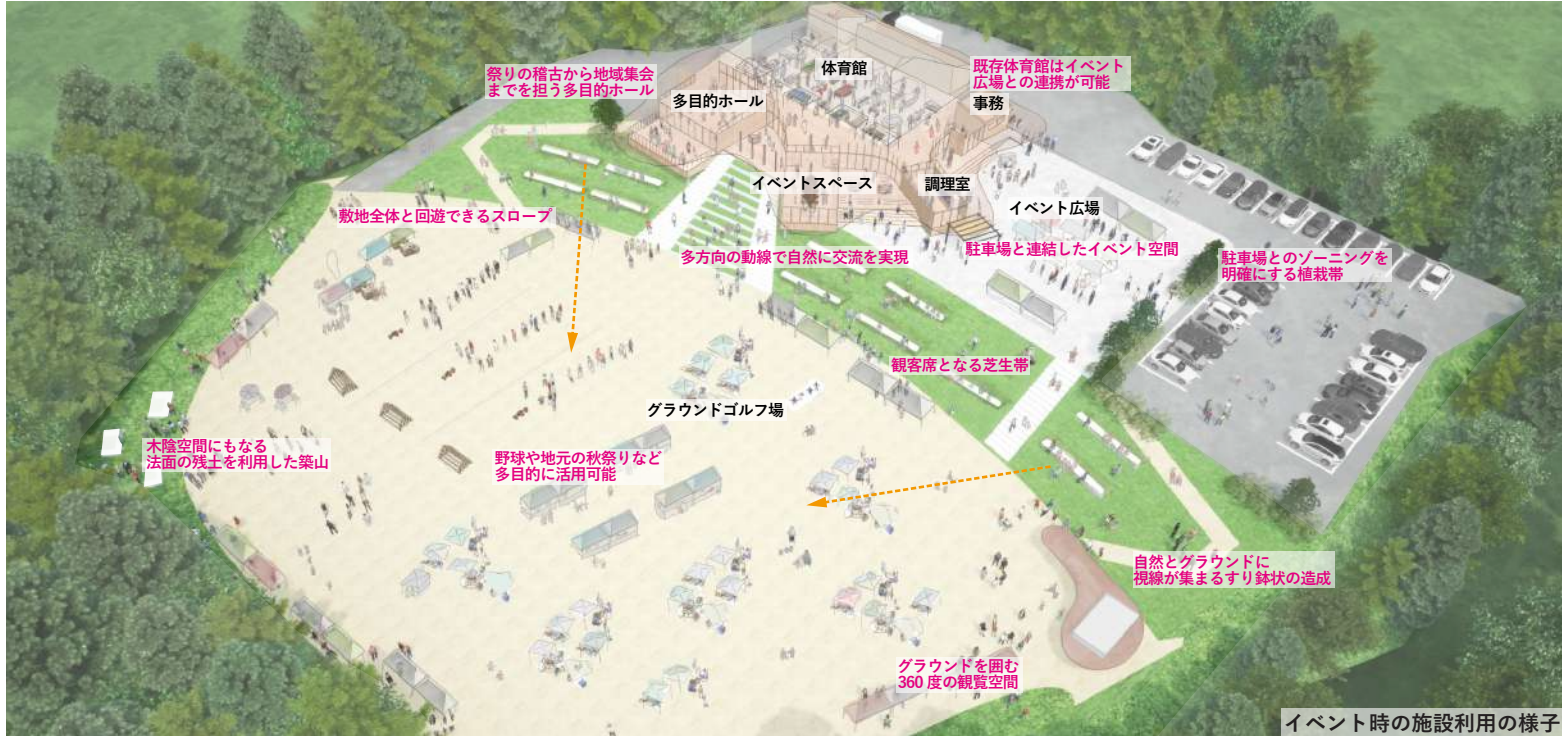
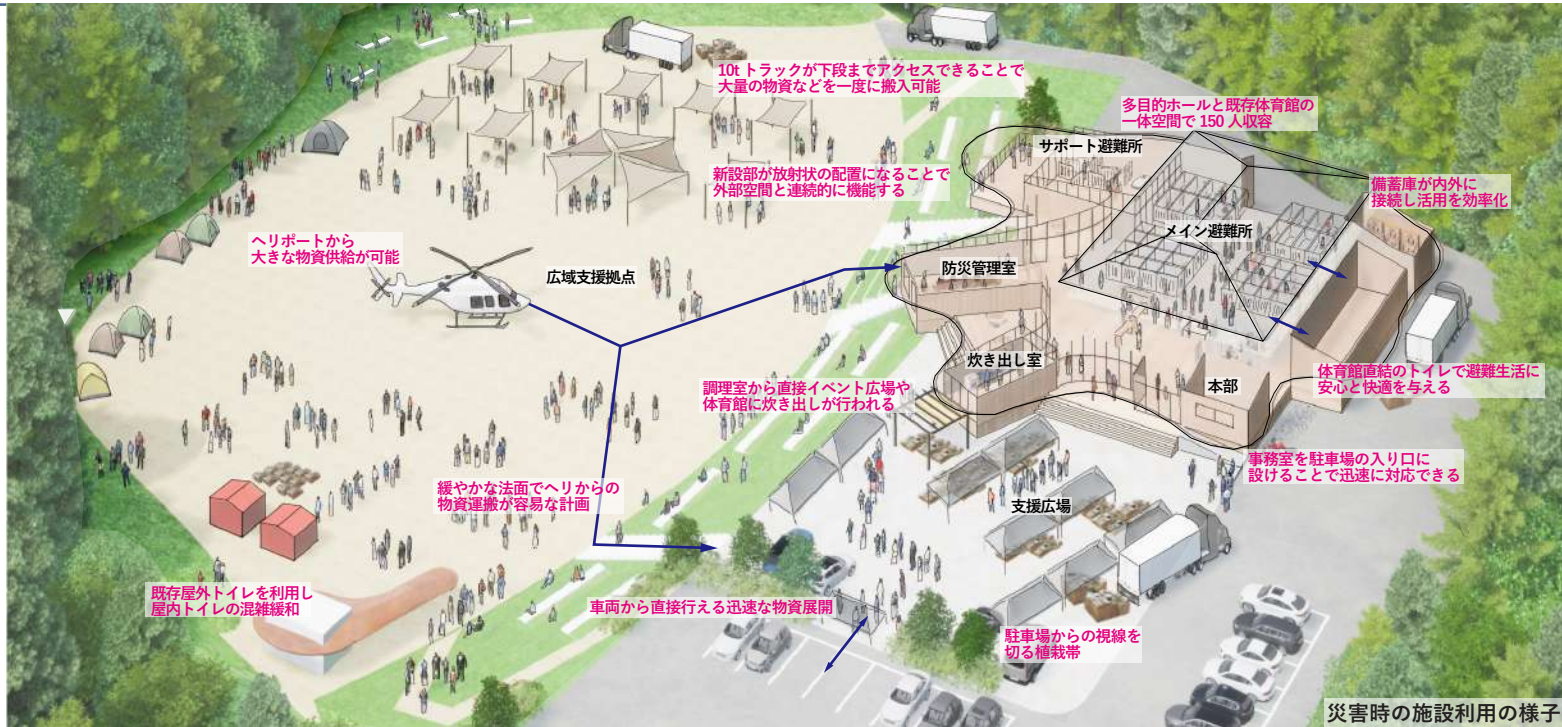
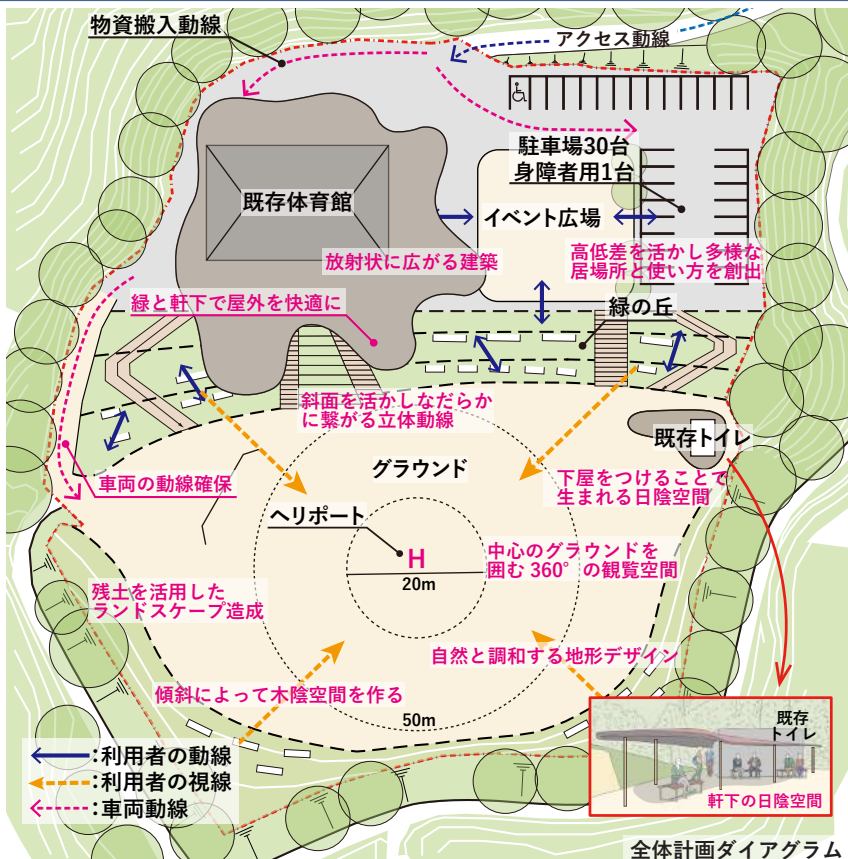


- ・地域の暮らしに根づいてきた祭りやスポーツ大会などのこれまでの行事を引き継ぎながら、その**舞台をより豊かに広げる場**をつくります。既存体育館・イベント広場・グラウンドがそれぞれ集いの場所となりながら、**交流施設が緩やかに敷地全体をつなぐ場所**となります。
- ・多世代・多地域の人々が自然と交わり、日常の集いとイベント時にぎわいが重なり合うことで、**イベント広場は単なる活動の場ではなく、地域の営みを未来へとつなぎ、御船町の新たな文化をつくる拠点**となります。



中山間地域の特色を生かした開かれた交流施設 段差を活かし、中山間地域の魅力を引き出す全体計画

- 1. 地形特性を読み解いた全体計画**
起伏のある敷地の特性を活かした造成計画を行うことで、**今あるこの地域特有の風景や空間の魅力を活かす計画**を行います。
- 2. 既存の建物に付属する大屋根**
既存の体育館とトイレのそれぞれに大屋根を寄り添わせることで、**既存建築を保護しながら周囲に陰をつくる計画**を行います。屋根下空間は休憩場となるなど、グラウンドやイベント広場での活動を支え、**敷地全体の利用を促進する空間**となります。
- 3. 多様な居場所の創出**
建築、イベント広場、築山、法面に対して切土・盛土を行うことで、**高低差を活用したそれぞれの場所の使い方を可能**にします。また、大屋根による日陰空間や、斜面を活かした段差の客席、屋外テラスなど、様々な居場所をつくることで、**利用者が気軽に集い、交流しやすい環境を創出**します。
- 4. 全体を緩やかに繋ぐランドスケープ**
既存敷地に対しての切土・盛土によって人が上り下りできるスロープを 設置し、**敷地全体を回遊でき、緩やかにつながるように計画**します。また、敷地の法面を緩やかな傾斜面として客席となるベンチを設けることで、**高低差のある敷地全体が一体となる計画**を行います。
- 5. 日陰をつくる植栽帯**
グラウンドの外縁部に配置する築山は、**既存の樹木を活かしながら日陰を創出するような植栽配置**とし、イベント広場は駐車場との間に植栽を配置することで、**最低限の植栽で暑い時期でも快適に利用できる計画**を行います。



県産材の活用による御船らしい風景の創出 地域素材を用いた御船らしさを生み出す植栽と景観

自生する樹木を活用した居場所づくり

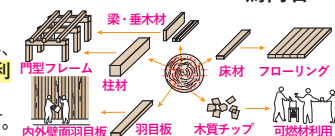
- ・敷地を囲む既存の樹木配置を活かし、盛土や芝、ベンチを組み合わせ、**日差しを和らげる自然な木陰の居場所を敷地全体に計画**します。
- ・周辺山間部から確保した落葉樹の地域種を植生させることで、**冬は明るく、夏は木陰が落ちるランドスケープを敷地全体につくり**ます。
- ・中山間地域に自生する樹木を採集・移植し、イベント広場や緩やかな法面などに適度な木陰をつくります。
- ・地域固有種を実生から採集するワークショップを実施し、**地域種の植栽計画**を行います。

熊本産馬門石敷による、機能性に優れたイベント広場

- ・イベント広場は馬門石敷とすることで、馴染みやすさを創出するとともに、**特徴的な色による高い視認性によって町民が集まりやすい空間**をつくります。
- ・石敷きとすることで広場の透水性を確保しながら、イベント時の車両の進入に対応できる仕様とすることで、**長期にわたり広場機能を維持し、維持管理コストを抑え**ます。
- ・滑りにくい表面性状により、**雨天や災害時にも安全な歩行や活動ができる場**として計画します。

地元産木材を活用した計画

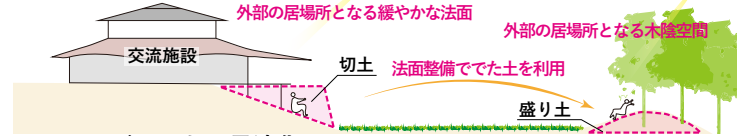
- ・熊本県内の豊かな地域木材を有効利用して輸送コストを削減し、**1本の木から構造体・下地材・建具・仕上材まで余すことなく利用**します。
- ・地場の工務店が施工可能な仕様とし、**施工費用の削減**に努めます。



コストマネジメントと運営コストの削減 既存土の再利用と既存施設の活用によるコストコントロール

建設コストの最適化

- ・建設切土と法面整備によって生じた土を敷地全体に再利用し、**敷地全体が緩やかにつながる計画**とします。これにより外部からの土搬入や残土処分を不要とし、造成コストを大幅に削減し、**切土・盛土を極力均衡させることで環境負荷を抑えつつ、経済的な整備を可能**にします。



ランニングコストの最適化

- ・交流施設は既存体育館と一体的な施設として管理することで、**維持管理にかかる人的・経済的負担を軽減**します。非常時には広い避難空間を提供しつつ、常時は多目的利用にも低コストで対応できるような、**柔軟かつ持続可能な運営体制を構築**します。
- ・滞在時間の長い居室は空調を設け、回廊は無空調ながら通風や蓄熱が起りやすい床素材を採用することで、**建物全体の空調負担を軽減**します。
- ・設備機器は露出として汎用品を利用することでメンテナンスを容易にし、**仕様を標準化**することで、**工種を極力減らした合理的な計画**を行います。

概算工事費：350 百万円（税込）